



▲トンネルの中を進む子どもたち

地域の水資源の大切さや、そこで営まれてきた農業について理解を深めてもらおうと京都府の各振興局が取り組んでいる「府ふるさと棚田事業」の一環として「ふるさと発見隊in南丹」が行われ、市内の4、5、6年生約50人が参加しました。

子どもたちは日吉ダムを見学した後、約230年前に造られた井堰の勝抜隧道（日吉町殿田一園部町船岡）を歩き、硬い岩盤を掘削して農地まで水を引いた先人の努力や苦勞に触れました。

7/27・ふるさと発見隊in南丹

「水を引いた先人の努力や苦勞に触れる」

子どもたちに、ふるさとの自然を感じながら自然環境保全の大切さを学んでもらおうと八木町内の小学生を対象に市教育委員会主催の「水辺の観察」が行われました。7月7日に八木町西田地区の用水路で、そこに生息する生き物を採り、後日、個体数の確認や生態調査を行いました。7月31日には、観察した生き物を元の用水路へ放しました。



▲観察した生き物を元の用水路へ放しました

7/31・水辺の観察

「自然環境を保全する大切さを学ぶ」

「日々の生活からゴミは減らせます」

7/15・家庭ごみの減量化から進める地球温暖化対策



▲自身が描いたマンガで説明をされる高月教授

京都府南丹保健所主催による家庭ごみの減量化をテーマに、足元から進める地球温暖化防止についての研修会が、南丹市国際交流会館で行われ、およそ120の方が参加されました。

研修会では、京都府地球温暖化対策プロジェクトの奥谷参事より、京都府が進めている地球温暖化対策の説明がされた後、石川県立大学の高月紘教授から「家庭ごみの減量化から進める地球温暖化防止のとりくみ」と題した講演が行われました。高月教授は「ゴミを減らすためには“人づくり”が重要」と、日々の生活の中からゴミを減らす取り組みを話されました。

「七夕の日に美しい音色が日吉に流れる」

7/7・星祭コンサート

南丹市日吉町生涯学習センターで「星祭コンサート」が行われ、日吉町内で活動する篠笛サークル“ささゆり”、オカリナサークル“南丹ラベンダーズ”、女声コーラスグループ“コーラスやまゆり”の3組56人が日ごろの練習の成果を発表しました。七夕の日にちなんで行われたコンサートとあって、「七夕さま」や「きらきら星」などの曲を披露。また3組合同による「ふるさと」「千の風になって」などの曲も披露され、訪れた120人は、美しい音色に聞き入っていました。



▲篠笛、オカリナ、コーラスの3組合同でも曲を披露